

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
大原スポーツ公務員専門学校福岡校		平成14年4月1日		西村 幸夫		〒 812-0026 (住所) 福岡県福岡市博多区上川端町14-13 (電話) 092-271-2281		
設置者名		設置認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人大原学園		昭和54年4月1日		中本 每彦		〒 101-0065 (住所) 東京都千代田区西神田一丁目2番10号 (電話) 03-3292-6266		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	スポーツ学科		平成27(2015)年度	-	平成28(2016)年度		
学科の目的	本学科は、教育基本法、学校教育法に基づき、スポーツに関する専門教育並びにビジネスに関する教育を施し、人格の陶冶を行い、もって有益な産業人を育成することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(取得可能な資格) NSCA認定パーソナルトレーナー(NSCA-CPT)、健康運動実践指導者、幼児体育指導者検定2級、体カトレーニング検定3級、日本商工会議所主催リテールマーケティング(販売士)3級、Microsoft Office Specialist(MOS)Word 2016,Excel 2016,PowerPoint 2016							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,720 単位時間		1,130 単位時間	420 単位時間	1,130 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員	生徒定員(A)	留学生数(生徒定員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
70人	15人	0人		0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		17人					
	■就職希望者数(D)		17人					
	■就職者数(E)		16人					
	■地元就職者数(F)		8人					
	■就職率(E/D)		94%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		94%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
			(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)					
		■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ㈱アクトス、㈱ジェイエスエス、㈱ヒラオカコーポレーション、㈱nobitel、リーフラス㈱、医療法人己平会 よう整形外科クリニック、㈱河合楽器製作所(カワイ体育教室)、㈱ビートスミミングクラブ、高松国税局、㈱コンビナススポーツウェアジャパン、山口県警察、海上保安庁 等						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
当該学科のホームページURL	<a href="https://kyusyu.o-hara.ac/bunya/sports/">https://kyusyu.o-hara.ac/bunya/sports/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		1,720 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		120 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		60 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		60 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		60 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総授業時数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		2人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先であるスポーツ施設と連携して教育課程の編成を行なうことにより、専門的な知識・技術修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②スポーツ学科における学修の中心は、トレーニング医科学分野の知識並びに技能である。これらについて、教育課程編成委員会を通じて常に最新の知識並びに技能を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践修得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- ④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も各分野ごとに各共通の組織を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

教務部(教務課)の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして、本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。また、委員会での協議結果は大原学園教育本部に提出し、大原学園全校の教育課程編成にも活用していく。

②意思決定の過程について

- (ア)学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。
- (イ)委員会では企業等からの意見を参考に、次年度以降の教育課程編成に関する改善案を策定する。
- (ウ)委員会での協議内容は学園教育本部に提出し、学園全校の教育課程編成にも活用していく。
- (エ)教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長・教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目・内容・手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 紀子	一般社団法人 日本スロージョギング協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
田中 英幸	株式会社 健康科学研究所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
西村 幸夫	大原スポーツ公務員専門学校福岡校 校長	—	—
阿波谷 亮治	大原スポーツ公務員専門学校福岡校 部長	—	—
秋元 良太	大原スポーツ公務員専門学校福岡校 課長補佐	—	—
山口美紀	大原スポーツ公務員専門学校福岡校	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、12月)

(開催日時(実績))

令和4年度 第1回 令和4年8月9日 14:45～15:45

令和4年度 第2回 令和4年2月21日 15:00～17:00

令和5年度 第1回 令和5年8月3日 16:00～16:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

① プレーヤーズセンタードコーチングの推進

昨年度の委員よりご助言いただいた内容を踏まえ、コーチング実習を行う際には、プレーヤーセンタードコーチングを意識的に取り入れるような工夫を施している。学生が将来、指導者になった際に、対象者の主体性を引き出すようなアプローチスキルを習得できるようコマシラバスに改善を加えた。

② 他学科との合同授業科目の設置

保育福祉学科と連携し、幼児体育指導の合同授業を行い、他学科生と交流しながら学べる環境づくりに取り組んでいる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
① フィットネス施設に学生が出向き企業の方が実施する実習授業を受講する。		
② フィットネス施設との連携による実習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技能修得と、社会人としての意識改革、トレーナーとしての意識改革を実現する。		
③ フィットネス施設担当者と連絡を取り、実習授業を受け入れる場所の確定を行う。学生の知識・技能の修得状況を報告し、実習授業内容の打ち合わせを行う。実習終了時に学生の実践・実務能力に対し、企業からの評価を仰ぐ。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容		
※ 授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記		
① 実習日程、実習内容、到達目標、評価指標等を調整・決定		
② 依頼している実習授業の実習実施		
③ 学生の実習状況の確認及び担当者との情報交換のため、担当教員による訪問		
④ 実習終了時の学生の学修成果の評価		
(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング指導実践Ⅰ	レジスタンスエクササイズ、心臓血管系エクササイズ、プライオメトリックエクササイズ、スピードトレーニング等の指導実習	セントラルスポーツ株式会社
トレーニング指導実践Ⅲ	水泳と水中運動(アクアエクササイズプログラム)の指導実習	セントラルスポーツ株式会社
企業等実習Ⅰ	スポーツ関連企業等での職業体験型実習①	各実習先企業等
企業等実習Ⅱ	スポーツ関連企業等での職業体験型実習②	各実習先企業等
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
※ 研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために大原学園教員研修規定に基づき、計画的に下記のとおり教員研修の環境を整える。		
① 教員に対し学生に指導できるよう実践的な知識・指導スキル研修を身に付けさせる。		
② 学生が在学中に取得する資格について教員も講習を受講する。		
③ 学外で実施される分野関連講習会を教員が受講する。		
④ 指導力の修得に関する研修を受講する。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	NSCA ジャパン AD ウェビナー	連携企業等: NPO法人 NSCAジャパン
期間:	令和4年9月17日(土)	対象: スポーツ学科教員
内容:	トップカテゴリーラグビーチームにおけるコンディショニングアプローチ例 ～各種トレーニングツールやデバイスの活用方法～	
研修名:	NSCA ジャパン AD ウェビナー	連携企業等: NPO法人 NSCAジャパン
期間:	令和4年9月29日(木)	対象: スポーツ学科教員
内容:	ジュニアスポーツ(ウォームアップ戦略)	
研修名:	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成講習会	連携企業等: (公財)日本スポーツ協会
期間:	令和5年1月14日(土)・15日(日)、2月4日(土)・5日(日)	対象: スポーツ学科教員
内容:	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成のための講義並びに実習	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	ラグビーシンポジウム	連携企業等: (公財)日本ラグビーフットボール協会
期間:	令和4年9月3日(土)	対象: スポーツ学科教員
内容:	コーチカンファレンスの特別イベント	
研修名:	2022年度コーチカンファレンス	連携企業等: (公財)日本ラグビーフットボール協会
期間:	令和4年9月19日(月)～令和4年10月10日(月)	対象: スポーツ学科教員
内容:	JRFU公認コーチ有資格者向けのブラッシュアップ研修	
研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等: (公財)健康・体づくり事業財団
期間:	令和5年3月14日(火)	対象: スポーツ学科教員
内容:	(1) 健康科学分野における最新の研究成果 (2) 令和4年度認定試験(実技指導試験)評価の総括 (3) 令和4年度健康運動実践指導者養成校修了者に対する認定試験結果及び令和5年度試験実施計画について	

<b>(3) 研修等の計画</b>								
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>								
研修名: 膝・股関節コンディショニングワークショップ 期間: 令和5年4月15日(土) 内容: 膝・股関節のリセットコンディショニングを目的としたエクササイズの指導	連携企業等: (一社)日本コンディショニング協会 対象: スポーツ学科教員							
研修名: 高齢者コンディショニングワークショップ 期間: 令和5年4月15日(土) 内容: 高齢者を対象としたエクササイズの指導	連携企業等: (一社)日本コンディショニング協会 対象: スポーツ学科教員							
研修名: JRFUトレーナー研修会(九州) 期間: 令和5年6月10日(土) 内容: ラグビーにおける脳振盪の初期対応から競技復帰まで 講義① 脳振盪発生後のフィールドにおける初期対応 講義② 競技特性を踏まえた 段階的復帰(G RTPの実際)	連携企業等: (公財)日本ラグビーフットボール協会 対象: スポーツ学科教員							
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>								
研修名: 生きづらさを抱える人々への支援～子どもから大人まで～ 期間: 令和5年8月17日(木)～令和5年10月1日(日) 内容: ①成人期の発達障害の支援 ②ギャンブル依存・ゲーム依存の支援 ③学童期から思春期の発達障がいへの支援 ④救えたはずの命から託された願い	連携企業等: 福岡県精神保健福祉協会 対象: スポーツ学科教員							
研修名: 健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会 期間: 令和6年3月中旬～下旬頃 内容: (1)健康科学分野における最新の研究成果 (2)令和5年度認定試験(実技指導試験)評価の総括 (3)令和5年度健康運動実践指導者養成校修了者に対する認定試験結果及び令和6年度試験実施計画について	連携企業等: (公財)健康・体づくり事業財団 対象: スポーツ学科教員							
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係								
<b>(1) 学校関係者評価の基本方針</b> 当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。								
<b>(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</b>								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td>①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。</td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td>①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td>①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムで適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。	(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムで適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目							
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。							
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。							
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムで適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行う事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。							

(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

○就職等進路に関する支援組織体制の整備について

新型コロナウイルスのパンデミックの影響を受け、フィットネスクラブ業界にて提供されるサービスもオンライン化が進んでおり、新規雇用に慎重な姿勢となっているため、より専門性の高い人材育成を行うと共に、これまでより更に手厚い就職支援体制をために取り組んでいる。特に学生の希望と企業のニーズのマッチングを高めるために、業種や職種、求められるスキルを詳細に分類した求人データベースを構築し、日々更新している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
富岡 美穂	富岡美穂税理士事務所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
古賀 豊勝	株式会社西鉄アカウンティングサービス	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉竹 知恵美	イオン九州株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
新開 盛弘	上川端町四区自治会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	近隣住民
四宮 輝	株式会社にしけい	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 英幸	株式会社健康科学研究所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
南川 弘明	社会医療法人青洲会福岡青洲会病院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
長野 潤平	医療法人堺整形外科医院福岡スボ-ツクリニック	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
真野 素行	社会福祉法人真和会第2板付保育園	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
中村 大輔	医療法人徳洲会福岡徳洲会病院	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
長谷川 正志	社会医療法人青洲会グループ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
石橋 夕紀子	社会福祉法人福岡市社会福祉協議会博多区・南区社協事務所	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	近隣住民
永椎 広典	GMOペパボ株式会社	令和5年7月1日～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和5年10月20日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、関係業界、地域住民、保護者、教育機関関係者など関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携・協力の推進に資する観点から、積極的な情報提供に取り組む。

②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。

③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①概要 ②教育方針 ③沿革
(2) 各学科等の教育	①入学定員 ②受入方針 ③進級要件 ④卒業要件 ⑤称号付与 ⑥目標とする試験 ⑦主たる試験の合格実績 ⑧卒業生の進路
(3) 教職員	①教職員数 ②教職員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①キャリア教育 ②実習・実技等 ③就職支援等
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②課外活動
(6) 学生の生活支援	①完全担任制 ②就職教育
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和5年10月20日

## 授業科目等の概要

(文化教養専門課程 スポーツ学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			トレーニング 基礎理論Ⅰ	運動生理学に関する基礎的知識を身に付ける	1 前	30	2	○			○		○		
2	○			トレーニング 基礎理論Ⅱ	機能解剖とバイオメカニクスに関する基礎的知識を身に付ける	1 前	20	1	○			○		○		
3	○			トレーニング 基礎理論Ⅲ	トレーニングに対する生理的適応について基礎的知識を身に付ける	1 前	20	1	○			○			○	
4	○			トレーニング 基礎理論Ⅳ	スポーツ栄養学に関する基礎的知識を身に付ける	1 前	20	1	○			○			○	
5	○			トレーニング 基礎理論Ⅴ	運動心理学に関する基礎的知識を身に付ける	1 前	20	1	○			○		○		
6	○			トレーニング 応用理論Ⅰ	クライアントとの面談・スクリーニングに関する基礎的知識を身に付ける	1 前	30	1	○			○		○		
7	○			トレーニング 応用理論Ⅱ	レジスタンストレーニングのプログラムデザインに関する基礎的知識を身に付ける	1 後	40	2	○			○		○		
8	○			トレーニング 応用理論Ⅲ	有酸素運動のプログラムデザインに関する基礎的知識を身に付ける	1 前	20	1	○			○		○		
9	○			トレーニング 応用理論Ⅳ	プライオメトリクスとスピードトレーニングに関する基礎的知識を身に付ける	1 後	20	1	○			○			○	
10	○			トレーニング 応用理論Ⅴ	特定のクライアントのプログラムデザインに関する基礎的知識を身に付ける	1 後	50	3	○			○		○		
11	○			トレーニング 応用理論Ⅵ	施設・機器のメンテナンス、関係法令に関する基礎的知識を身に付ける	1 後	20	1	○			○			○	

12	○		トレーニング 実習Ⅰ	柔軟性トレーニング, W-up, 自重トレーニングの実技能力を養成する	1 前	40	1			○	○	○				
13	○		トレーニング 実習Ⅱ	レジスタンストレーニングのエクササイズ テクニック及びに指導力を養成する	1 前	100	3			○	○				○	
14	○		トレーニング 実習Ⅲ	心臓血管系エクササイズのエクササイズ テクニック及びに指導力を養成する	1 前	30	1			○	○	○				
15	○		トレーニング 実習Ⅳ	プライオメトリクス, スピードトレーニング のエクササイズテクニック及びに指導 力を養成する	1 前	30	1			○	○				○	
16	○		トレーニング 指導実践Ⅰ	各種トレーニングの指導スキルを養成する	1 後	30	1			○		○			○	○
17	○		トレーニング 指導実践Ⅱ	エアロビックダンスの指導スキルを養成す る	1 後	30	1			○	○				○	
18	○		トレーニング 指導実践Ⅲ	水中運動の指導スキルを養成する	1 後	30	1			○		○			○	○
19	○		トレーニング 理論総合演習 Ⅰ	解剖・生理・バイオメカニクス・栄養・ト レーニング・ケア・心理に関する初級レベ ルの知識を習得する	1 後	20	1			○		○			○	
20	○		一般教養Ⅰ	ビジネスで使用される初歩的な熟語、四字 熟語、慣用句などを学ぶ	1 後	30	1			○		○			○	
21	○		キャリアデザ インⅠ	面接試験において求められるビジネスマ ナーの基礎を学ぶ	1 前	30	1			○		○			○	
22	○		キャリアデザ インⅡ	会社などの組織を理解し、最低限身につけ なければならないスキルの学習	1 後	30	1			○		○			○	
23		○	フィジカルア セスメントⅠ	関節可動域 (ROM) 測定方法を学ぶ	1 前	30	1			○	○				○	
24		○	フィジカルア セスメントⅡ	運動機能障害に対応するために、動作パ ターンの理解と評価方法を学ぶ	1 前	30	1			○	○				○	
25		○	ファンクショ ナルトレーニ ングⅠ	代償動作の修正エクササイズのエクサイ ズテクニック及びに指導力を養成する	1 後	30	1			○	○				○	

26	○	トリートメント技能 I	スポーツマッサージを中心とした軟部組織 モビライゼーションの手技を習得する	1 前	30	1			○	○	○							
27	○	テーピング技能	テーピングの効果・目的を理解し、効果的 なテーピングの技能を学ぶ	1 後	30	1			○	○								○
28	○	スポーツキャリアデザイン I	スポーツに関わる産業分類を業種・職種ご とに学ぶ	1 後	30	2		○		○		○						
29	○	販売知識基礎	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、 マネジメントの知識を理解する	1 後	60	2	○			○		○						
30	○	販売知識応用	小売業について体系的に学び、実務的なビ ジネスの知識を理解する	1 後	60	2	○			○		○						
31	○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解 する	1 前	60	2	○			○		○						
32	○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用 法を習得する	1 後	60	2	○			○		○						
33	○	PowerPoint基 礎 I	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作 を理解する	1 後	60	2	○			○		○						
34	○	PowerPoint応 用 I	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な 操作を習得する	1 後	30	1		○		○		○						
35		○ 企業等実習 I	専門職に関する職業体験を行う	1 後	30	1			○			○						○ ○
36		○ トレーニング 理論総合演習 II	解剖・生理・バイオメカニクス・栄養・ト レーニング・ケア・心理に関する中級レベ ルの知識を習得する	1 後	20	1		○		○		○						
37		○ トレーニング 理論総合演習 III	パーソナルトレーナーに求められる高いレ ベルの知識を習得する	1 後	50	2		○		○		○						
38	○		健康づくり施 策概論	我が国の現状と健康施策について学ぶ	2 前	20	1	○		○		○						○
39	○		運動生理学	運動による生理学的な変化を学ぶ	2 後	20	1	○		○		○						

40	○		機能解剖とバイオメカニクス	解剖学的知識を基に人体の力学的作用を学ぶ	2後	20	1	○			○		○		
41	○		栄養摂取と運動	身体活動・運動に対する各栄養素, エネルギー代謝の役割を学ぶ	2前	20	1	○			○				○
42	○		体力測定と評価	体力測定の目的と評価方法について学ぶ	2通	30	2	○			○		○		
43	○		健康づくりと運動プログラム	身体活動・運動の生活習慣病に対する効果を理解する	2前	20	1	○			○		○		
44	○		運動指導の心理学的基礎	運動実践に関わる社会・心理・環境要因を学ぶ	2通	20	1	○			○		○		
45	○		健康づくり運動の実際	運動プログラムを構成、実演、指導できる能力を養成する	2前	40	2	○			○		○		
46	○		運動障害と予防・救急処置	運動中に発生しうる救急疾病や外科的損傷を学ぶ	2前	20	1	○			○				○
47	○		キャリアデザインⅢ	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身につける為の学習	2前	30	1		○		○		○		
48		○	トレーニング指導実践Ⅳ	エアロビックダンスの特性・効果、指導者の役割について学ぶ	2前	60	2				○	○		○	
49		○	トレーニング指導実践Ⅴ	介護予防運動に関する指導力を養成する	2前	60	2				○	○		○	
50		○	トレーニング指導実践Ⅵ	水中運動に関する指導技術を養成する	2通	30	1				○	○		○	
51		○	コーチング理論・実習	コーチングを行っていく上で必要となる知識・スキルを学ぶ	2通	100	3				○	○	○	○	
52		○	テーピング技能	テーピングの効果・目的を理解し、効果的なテーピングの技能を学ぶ	2前	30	1				○	○			○
53		○	トリートメント技能Ⅱ	徒手療法の基礎を学ぶ	2前	30	1				○	○			○

54	○	ファンクショナルトレーニングⅡ	機能改善を目的としたファンクショナルトレーニングについて学ぶ	2後	30	1			○	○			○
55	○	スポーツキャリアデザインⅡ	専門職のキャリア形成について学ぶ	2通	60	4	○			○		○	
56	○	スポーツキャリアデザインⅢ	中高年者向けの健康増進を目的とした運動指導を学ぶ	2通	60	2			○	○	○	○	
57	○	スポーツキャリアデザインⅣ	子ども向けの運動指導を学ぶ	2後	60	2			○	○		○	
58	○	スポーツキャリアデザインⅤ	ストレングス&コンディショニングトレーナー、アスレチックトレーナー活動を行う	2通	40	1			○		○	○	
59	○	ビジネスマナー	ビジネス電話対応や接客、接遇に関するルールを学習する	2後	60	2	○			○		○	
60	○	パソコン実習Ⅰ	Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける実習	2後	30	1			○	○		○	
61	○	マーケティング基礎	事例研究を通じてマーケティングを演習する	2後	60	2			○	○		○	
62	○	販売職ビジネスマナー	接客に関する実践的な学習をする	2後	90	3	○			○		○	
63	○	Word基礎	PCの基礎操作並びにWordの基礎操作を理解する	2前	60	2	○			○		○	
64	○	Excel基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用方法を習得する	2前	60	2	○			○		○	
65	○	PowerPoint基礎Ⅱ	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	2前	60	2	○			○		○	
66	○	PowerPoint応用Ⅱ	PCの基礎操作並びにPowerPointの応用的な操作を習得する	2後	30	1	○			○		○	
67	○	企業等実習Ⅱ	専門職に関する職業体験を行い、職業倫理感を高める	2後	30	1			○		○		○ ○

68		○	トレーニング指導実践Ⅶ	健康運動実践指導者として、プログラムの構成・実演・指導できる能力を養成する	2後	40	1			○	○	○		
69		○	トレーニング理論総合演習Ⅳ	健康運動実践指導者試験筆記試験9領域の演習を行う	2後	60	4		○		○	○		
合計					69	科目	2,680	単位時間						(103単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>下記に定める授業時間（単位）の履修及び所定の授業科目の成績評価に基づき卒業審査により行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。</p> <p>卒業要件： 1,720時間（65単位）</p>		1学年の学期区分	2期
<p>履修方法： 授業は、講義・演習・実習もしくは実技のいずれかより又はこれらの併用で行うものとする。  学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う効果測定、課題の提出等により評価する。  学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。  授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP (Grade-Point) を与える。  授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。</p>		1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。